

【基調講演】

2022年6月21日（火）13時40分～14時55分



神谷武宏師

- ・ 沖縄バプテスト連盟 普天間バプテスト教会牧師
中城城東バプテスト教会牧師（兼牧）
- ・ 普天間教会附属緑ヶ丘保育園園長
- ・ 普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会代表

「なんで おそらから おちてくるの？」と、問われて ～保育園・米軍ヘリ落下物事故から見える「日本の問題」～

聖書 ミカ書6章8節

「人よ、何が善であり 主が何をあなたに求めておられるかはあなたに告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである。」

挨拶

タイトルに「なんでお空から落ちてくるの」とあるが、あの落下物事故があった時、子どもたちが質問した言葉です。お空からは、雨以外に何も落ちて来ないはずなのに怖いものが落ちてきた。

「なんでお空から落ちてくるの」この言葉に、私たちおとなはどう答えることが出来るのか。



1. 緑ヶ丘保育園1964年4月開園

緑ヶ丘保育園は、普天間バプテスト教会の付属保育園として、1964年4月に設立。保育園の園庭は、子どもたちが「安全」に「安心」して、思いっきり遊ぶ場所として欠かせないところ。

保育園の園庭側には小高い御嶽のある山があり、戦後米軍はその山を削り土砂を採取し、普天間基地建設に利用。保育園開設当時は、削られた山の石灰石がむき出しになり、緑は無く、周囲は寂しい環境にあった。園名を考える中で初代主任を務めた保育士（名護タケ先生）が、詩篇23篇にある「主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。」（口語訳）との箇所が与えられ、神は「緑の牧場」という安全な場所へと導き、「いこいのみぎわ」という安心な場所へと伴ってくださる、との信仰を持って、「緑ヶ丘保育園」と命名した。その後、十数年が経つといつの間にかうっそうと広がる緑の木々に囲まれるようになり、今や名に相応しいに保育園となった。

2. 12月7日、米軍ヘリ落下物事故

園庭は、子どもたちが「安全」に「安心」して、思いっきり遊ぶ場所として欠かせないところ・・・しかし、空から雨以外のものが降って来た。2017年12月7日（木）午前10時16分ごろ、空から筒状の透明なガラスのようなもの、長さ約10cm、直径8cm、厚さ8mm、重さ213gのものが激しい音を立てて落ちてきた。

3. 大型ヘリの落下物の部品は、ストロンチウム 90 のカバー

実は、報道されていないことがある。警察が1時間半ぐらいの調査を終えて帰った後に、この落下物は、米軍大型ヘリCH53のプロペラの根元にあるストロンチウム 90 の放射線を抑制するカバーであることがわかった。

4. 米軍は、ヘリからの落下は「可能性低い」・・・翌日から誹謗中傷のメール、電話

米軍は翌日の8日に、落下物の「部品」はCH53 大型輸送ヘリの部品であることは認められたが、しかし、飛行中の機体から落下した可能性は「低い」と説明。この米軍の発表があったから、誹謗中傷の電話、メールが、保育園と教会に来るようになる。

* 誹謗中傷のメール：

屋根に落下物が落ちたそうですが、穴が空くどころか、傷ひとつ付かない素晴らしい屋根材が使われていますね。私は、家を新築しようと考えていますので是非、世界一の屋根材のメーカーと材料名を教えてください。／汚ねえクソサヨク。さっさと謝罪しろや／クソサヨクの保育園に子供を預けたら嘘つきになりませんか？／早く謝れよクソサヨク／子供まで利用するクソサヨク。おまえら恥ずかしくないのか？／自作自演／どうやら、嘘が全国にバレてしまったようですよ。落下物は三年前に使われていたもので、今は別物に変わってるというこですな笑笑 騒げば騒ぐ程取り返しの付かない事態になってしまうのに。馬鹿な保護者に忠告した方がよろしいと思いますがね。誰も騙せませんよ、今のご時世は。／自作自演／緑が丘保育園 園長先生様／自作自演、教育者として恥ずかしくないですか？早く自首して下さい。／保育園に落ちたという落下物の証言は、在日米軍の証言を元にする、落ちたということは無いです。子供を育てる職業に身を置く人物として、園長その他関係者は、恥ずかしくないんですか？／そんな考えで保育をしてもらっては困るので、園長を交代するか、何か考えてください。／反日活動家 神谷武宏へ／「事故の原因究明及び再発防止」ふざけるな、事故ではなく捏造事件だろうが！原因究明だとお前がやったんだろボケ！日本に楯突くならお前が日本国籍を放棄して日本から出て行け！／嘘ですよ。この米軍ヘリから、落下したパーツは3年前から、使われていません。よって、まずありえないことです。もし100歩譲って落下したとたら、このパーツは粉々になっているはず。ましてや、ドーンという音、熱をおびて焦げ臭いと園長はコメントしていますが、近くで、なにか事故とか、花火とかあったとかあったんではないですか？こういう嘘ねつ造をする保育園には逆に子供を預けられません。

5. 父母会が立ち上がり、「嘆願書」作成、署名活動始まる

・署名は第一期（10日間）26,372筆

「嘆願書」をもって、沖縄防衛局（2回）、外務省沖縄事務所、県庁（3度）、県議会、宜野湾市長面会、市議会、米国領事館、各政党事務所・・・。

・署名は2月11日をもって終了。12万6千907筆・・・その後も署名が届き、14万

近く集まった。

・2月13日、14日東京政府要請行動へ

内閣官房、外務省、防衛省の各担当者に対応、各政党巡り、外国特派員協会へ記者会見

・嘆願書の要望は、①事故の原因究明、および再発防止、②原因究明までの飛行禁止、③普天間基地に離発着する米軍ヘリの保育園上空の飛行禁止

6. 普天間第二小学校・米軍ヘリからの窓枠落下事故

7. 外務省が公表している米軍普天間飛行場飛行ルート外に保育園はあるのに・・・

8. 沖縄の「基地問題」は、「日本の問題」

9. 動画(短く動画を見て頂く)

- (1) 宮森小学校ジェット機事故ほか
- (2) 緑ヶ丘保育園の上空を飛び交う米軍機
- (3) ジェット機園上空通過時の園児の様子<室内、園庭>
- (4) ジェット機園上空通過時の園児、先生の言葉
- (5) 東京・政府要請の様子<2回目 2018年12月7日>
- (6) 歌「沖縄の涙」

【研修会①】

2022年6月21日（火）15時～16時15分

普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う、ということ ～キリスト教会の“軍事基地”という暴力に対する一つのたたかい～

聖書 ミカ書6章8節

「人よ、何が善であり 主が何をあなたに求めておられるかはあなたに告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである。」

挨拶

「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う、ということ」を2012年の10月から行っていますが、私たちの教会の業として、米軍基地のゲート前で、赤いのぼりを掲げ、そこには「NO! OSPREY NO! RAPE NO! BASE」と書かれており、その言葉を掲げ、ゴスペルを歌って抗議を行える。

何故、教会が、クリスチャンがこのようなことをするのか？本来なら、会堂で、厳かに、讃美歌を歌い、聖書の御言葉に聞き入り、祈りを捧げる・・・ということをしておきたいのだが、しかし、そうはさせてくれない現状が、暴力が沖縄にはあるから・・・。

1. 米軍普天間基地の造られる前と後

- (1) 戦前の宜野湾はどのような村だったのか？
- (2) 普天間基地（米軍普天間飛行場）がどのように造られたのか？

当教会から300m先に普天間基地がある。この米軍普天間飛行場がどのように造られて行ったのか見ていきたい。

- ・1944年の宜野湾村、じのーんなんまち（琉球松の並木道、1932年に日本の天然記念物）
- ・1945年4月、琉球松を伐採する米軍。2700mの滑走路建設。
- ・米軍・普天間飛行場が何故つくられたのか？日本本土決戦に向けての突貫工事だった。
- ・普天間基地の危険性が良く問われるが、何故危険な基地の周りにわざわざ住むのか？その問題の発端はどこにあるのか？
- ・普天間基地は東京ドームの何倍か？
- ・沖縄から普天間基地が全面撤去されたら沖縄にある米軍基地の何%が減ることになる？

2. 普天間基地がもたらした主な事故から／教会として軍事基地問題に向き合う

普天間基地所属の米軍機の墜落事故、不時着事故、落下物事故は挙げればきりが無い。

- ・2004年8月13日の沖縄国際大学に大型輸送ヘリ CH53D が墜落炎上。普天間バプテスト教会・保育園からは4kmほどしか離れていない。
当然、「世界一危険な基地」の即時閉鎖・撤去を県民あげて運動がさらに高まるが、・・・
2011年に入ってさらにエスカレートする・・・。
- ・2011年から2012年という年に何が起きたか
- ・2011年3月11日の琉球新報の一面「メア日本部長を更迭」から、2012年9月9日の「県民大会」。普天間基地ゲート前連日の座り込み…普天間基地完全閉鎖へ。しかし、10月1日オスプレイ強行配備。

3. 「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会」2012年10月から始まる

普天間教会の皆さんや、他の教会にも呼びかけて、2012年10月29日から「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会」がスタートした。毎週月曜日の夕方6時から1時間、祈りと御言葉、賛美を歌って行動する。

のぼりには、「NO! OSPREY NO! RAPE NO! BASE」と記してあるが、何故「NO! RAPE」か？この年にも8月に40代の女性が、10月には20代の女性が米兵からレイプを受けている。オスプレイ配備も、沖縄へのレイプそのものだ。

- ・辺野古ゴスペル ・高江ゴスペル ・名護署でもゴスペル「不法逮捕の釈放を求めて」
- ・日本各地でもゴスペルを歌う会が始まる。
- ・追悼ゴスペル「2016年4月28日に拉致、強姦、殺害遺棄された20歳の女性を覚えて」追悼の翌週に起きた「神などいない」という叱責の言葉…「まだヤマトからの言葉を許しているの神谷さん、神谷さん、あなたは甘いよ、こんな集まりに神はいない！」

4. その後も毎年のように米軍機の墜落、不時着事故、落下靴事故がある

- ・オスプレイ墜落事故と同日に普天間基地内で胴体着陸事故（2016年12月13日）
- ・緑ヶ丘保育園、米軍ヘリからの落下物事故（2017年12月7日）
- ・普天間第二小学校、米軍ヘリからの窓枠落下事故（2017年12月13日）
- ・その他にも…

5. 基地問題と向き合う時の祈りの言葉

- ・ゲート前での祈りの言葉

○平良修氏の祈り「主よ、あなたの御心に反して、未だに戦を止めることが出来ずにいる無力な私たちが憐れんで下さい。私たちのその罪をお赦し下さい。そして、何とかして、何とかして、この世界に、この沖縄に、平和を創り出したい、そうせねばと願い努めている私たちと共に居て、一緒に働いて下さい。主よ、イエス・キリストよ、・・・立ち上がって下さい。目に物を見せて下さい。そして、平和を創出するあなたとの共同作業に私たちをもっと強く加え入れて下さい。いと高き所ではあなたにご栄光が、そして地においては私たちに平和が満ちますように。主よ、み国を来たらせて下さい。1日も早く。主よみ国を！主イエス・キリストの御名によって祈ります。」

○関田寛雄氏の祈り（2014年7月7日）「主なる神様、沖縄が救われなければ日本国は救われません。今またもやおぞましい戦争への備えをなしつつある日本国を、あなたの義と愛によって審いて下さい。そのための「器」として主よ、私たち一人ひとりを用いて下さい。私たちの救い主、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。」

○詩編 94：1～2「主よ、報復の神として／報復の神として顕現し／全地の裁き手として立ち上がり／誇る者を罰してください。」

6. 基地問題と向き合う時、教会の課題として・・・

- ・教会関係者に軍作業員、軍用地主、配偶者・友人・知人が軍人などという場合があり、基地問題に触れることは簡単ではない。
- ・2014年度総会においての議案が否決。その背後にあったこと・・・
議案：「普天間バプテスト教会宣言文（案）『軍といのち、基地と人権は共存できない』」（別紙参照）

7. 最後に、ゲート前ゴスペルの動画

2014年度 普天間バプテスト教会宣言（案）

「軍といのち、基地と人権は共存できない」

沖縄は、古来、琉球王国時代を含むおよそ1000年の歩みの中で、その独自の文化や言語を発展させながら、他国との友好を築き、「万国津梁」を自負する歴史を育んできました。また、「命どう宝」という言葉が琉球・沖縄の歴史から生まれたことは、いかにこの土地がいのちの尊厳を重んじてきたかを現しているといえます。その一つの象徴が沖縄戦で亡くなった24万余の名前を記した平和の礎（沖縄平和祈念公園内）に見ることができます。そこに刻まれた名前は国籍を問わずに記されており、これは世界に類例を見ない特徴であり、いかに沖縄がいのちを尊ぶ普遍的な精神を表明し、平和を希求しているかが伺えます。

その沖縄の歴史、文化、思想がある中で、現状は、戦後69年が経過しても尚、米軍事占領が続いているかのように軍事基地から派生する事件・事故が繰り返され、基地の強化、新基地建設の強行、そして欠陥機であるオスプレイの強行配備がされています。日米安全保障制度のゆえに、近隣諸国に対する「抑止力」を理由に軍事基地が強要され、その代償として「沖縄、沖縄人」*のいのちが脅かされ、人権が軽視され続けて、今や犯罪的な「犠牲」を強要されています。

米軍はそれでも「良き隣人政策」（1998年）なるものを打ち出して、「国際交流」というタイトルで県内の米軍基地との人的交流を積極的に推進し、迷彩服の兵士が校舎やイベント会場にて奉仕をし、また「トモダチ作戦」（2011年）として東日本大震災の被災地に赴き、救援、瓦礫処理などの活動をして自らの友好性をアピールし、共存があたりまえになっているかのように振舞っています。しかしその行為は、欺瞞に満ちたものであることは、「沖縄、沖縄人」は既に気づいているのです。

現在の「沖縄、沖縄人」には、今尚「万国津梁」の思いが魂の奥深くに息づくものです。日米両政府が隣国に対する「抑止力」として軍備を強化し続けるたびに、沖縄の心はないがしろにされ続けています。欠陥機であるオスプレイ配備と米兵によるレイプ事件とは共通することであり、基地がある限り、事件・事故は起こり続け、常にその恐怖に晒され、「命どう宝」を生み出した歴史は踏みにじられているのです。まして私たちキリスト教会は、主イエスの「いのちに寄添い、最も小さい者の一人に寄添う」ことの大切さを知らされている者として、そのいのちを脅かす「軍」、人権を踏みにじる「基地」は、とうてい容認できるものではありません。

以上のことから、私たち普天間バプテスト教会は「軍といのち、基地と人権は共存できない」ことをここに宣言し、一日も早く、当沖縄の地の全米軍基地が撤去されることを願います。主イエス・キリストのまことの平和が等しく全世界におとずれることを願いつつ。

2014年5月25日
普天間バプテスト教会

* 「沖縄」という時、沖縄の島々を含む地理的、歴史的な広さを指している。「沖縄人」という時、そこには差別的な意味はなく、沖縄に住み、沖縄に生きることを良しとしている全ての人を指している。